

# 国語科学習指導案

## 指導事項

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること（Ｃ（１）ウ）

今回の取り組み（挑戦）

フレームリーディングという文章の内容や構造を丸ごととらえる読みの手法を活用し、教師や子どもがワクワクしながら授業に取り組めるよう、授業改善をしていく。

### 1 教材名 言葉と事実 （読む：説明文）

### 2 目標

文章を読み、学級新聞（記事）を書くことを通して言葉と事実の関係について考えることができる。

### 3 学習計画

一次：学習の見通しをもつ。（教師の範読を聞き、内容に興味関心をもつ） ①

二次：本文中の事実と言葉の数を確かめる。形式段落を確かめる。 ①

一番大事な段落を考えることで、段落の役割をつかむ。 ①

形式段落ごとに小見出しをつける。 ②

三つの事例と筆者の解説についてまとめる ①

三次：同じ出来事について、学級新聞の記事を書く。 ②

新聞記事を読み合う。 ①

### 1 時間目 範読・初発の感想

初発の感想をイメージマップにまとめたり、文章のおよその内容をつかんだりすることができる。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 言語事項の学習	10		
2 本単元のめあて「新聞記事を書いて、言葉と事実の関係について考えよう」という、単元を通してのめあてを確認する。	10	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。（2分） 新聞記事を書くために、言葉と事実の関係について内容を読み取ることを伝え、学習の目的意識を持たせる。 ・学習内容に興味関心をもたせるために、言葉と事実の正確な意味を辞書で調べて確認する。辞書で調べる前に、児童に自分の言葉で説明させても	

		<p>よい。ただし、時間はかけない。</p> <p>＊言葉：意味を伝えるはたらきをもつもの</p> <p>＊事実：実際にあることがら</p>	
<p>2 本時のめあて、「わかったことや思ったことをイメージマップにまとめよう」を視写する。</p> <p>3 本文の範読を聞く。</p> <p>4 イメージマップにわかったことや思ったことをまとめる。</p> <p>5 イメージマップをもとに交流する。 (まずは見せ合う)</p> <p>5 およそどのようなことが書かれていたか、ノートにまとめ発表する。</p>	<p>3</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p>	<p>・めあてを視写させ、本日の学習の見通しを持たせる。</p> <p>・範読を聞かせる際に、聞き終わった後に、わかったことや思ったことをノートにまとめることを伝え、範読を聞くことの目的意識をもたせる。</p> <p>・文章でまとめることに抵抗感を感じずる児童もいると思うので、イメージマップを活用する。</p> <p>・机間支援の際には、内容についての他に、説明文の構成について書かれているものがあつたら、意図的指名を行う。その際、目の付け所の多様さを賞賛する。</p> <p>・すぐに、発言させず、交流をする。交流のさせ方は、最初に隣と、次に席を立たせ、自分の好きな人と行わせる。時間は2分程度。席につかせた時に、何人のノートを見せてもらうことができたか、確認する。また、上手な交流ができていた児童を紹介する。この活動を取り入れることにより、自分のよさや不十分さに気づいたり、次時の学習への意欲にもつなげたりしていきたい。</p> <p>森林のはたらきとにのいの実験について書かれていたことを確認していきたい。イメージマップ作りの時に児童のノートを観察しながら、この2点について関連する言葉が書いてあった児童には、ノートに赤で丸を付けておいて指名をするなどの工夫をする。</p>	<p>わかったことや思ったことをイメージマップにまとめている。 (ノート・観察)読む</p>
<p>6 本時の学習の自己評価をする。</p>	2	<p>・めあてにもどり、自己評価をさせる。</p>	

2 時間目 本文中の事実と言葉の数を確かめたり、形式段落を確かめたりする。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 言語事項	10		
2 本時のめあて「本文中の事実と言葉の数」を確認したり、形式段落の確認をしたりする。	5	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
3 本文の音読をする。	5	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。	
4 形式段落に番号をつける。	5	・形式段落に番号をつける。13段落あることを確認する。 ・段落とは、文章中の内容のひとまとまりであること、いくつかの文が集まって段落ができていること、段落の始めは一字下げて書き出し、その段落が終わると行を変えることを、既習事項として確認する。（3年生の教科書で説明してある。）	
5 「言葉」・「事実」の数を数える。	15	・「言葉」・「事実」という言葉の数を数えさせることにより、説明文を読んでいくときは、繰り返し出てくる言葉に目を向けることが大切であることを説明する。繰り返し出てくる言葉を「キーワード」と言うことも確認する。 ・3～4分数えさせ、「言葉」・「事実」という言葉は、何回出てきたか質問する。 ・「言葉」20回・「事実」13回であるが、子どもたちの意見は様々になると思うので、段落ごとに確認していく。 ・形式段落1～13をノートに書かせ、その下に、「言葉」さらにその下に「事実」の言葉の数を書かせる。合計を確認し、キーワードである「言葉」・「事実」に目をむけながら読んでいくと、内容の読み取りが正確になることを伝える。	「言葉」・「事実」を数えている。 (観察) 読む
6 本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

3 時間目 一番大事な段落を考えることで、段落の役割をつかむ。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 言語事項	10		
1 本時のめあて 一番大事な「事実と言葉」 が書かれている段落はど れか考えよう。	5	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。集 中して試写する習慣が身に付くように、2分程度 たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 本文の音読をする。	5	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音 読することが、内容を理解する上で基礎となるこ とを伝える。	
3 一番大切な「事実と 言葉」が書かれている段 落選び、その理由をノー トに書く。	10	児童に、段落を一つ選ばせ、その理由をノートに 書かせる。 (全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習 などが入ると、交流活動になる。はばプラ)	一番大事である という段落を選 び、理由を書い ている。(ノー ト・観察)読む
4 全体で確認する。(一 斉で確認)	10	・一番大切な「事実と言葉」が書かれている段落 と、その理由を確認する。 *児童は、②・⑧・⑪・⑫・⑬あたりに目を付け ると考える。言葉と事実の言葉の数からも5つの 段落に目が向けられると思う。 ②：オオカミ少年の事例の解説 ⑧：リレー対抗戦の事例の解説 ⑪：デパートの事例の解説 ⑫：事例のまとめ(問いの答え) ⑬：筆者の主張 ・最後に筆者の主張が書かれている説明文を「尾 括型」ということを指導する。 <u>？説明文の構成 問いと答えがあることをどこ で確認するか。</u>	
5 本時の学習の自己評 価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

4 時間目 形式段落ごとに小見出しをつける。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 言語事項	10		
1 本時のめあて「段落 ごとに小見出しをつけよ う」	5	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。集 中して試写する習慣が身に付くように、2分程度 たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 本文の音読をする。	5	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音	

		読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。	
4 事例と解説について確かめる。	5	・ p 6 1 の「ここが大事」を読み、この説明文書き方の特徴について理解させていく。このことにより、小見出しをつけるときに使用する言葉のヒントにもちて行きたい。(事例・解説)	
3 段落ごとに小見出しをつける。 (個人学習)	1 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形式段落に書かれていることを短い言葉でまとめる。</li> <li>・小見出しは短い言葉でまとめることが大切であることを説明する。</li> </ul> ① うそつき少年の事例 ② 言葉は、事実と結びつけて使う。 ③ 問い ④ リレー対抗戦の事例 ⑤ リレー対抗戦 1 組の事例 ⑥ リレー対抗戦 2 組の事例 ⑦ 解説 ⑧ 解説 ⑨ デパートの事例 ⑩ デパートの事例 ⑪ 解説 ⑫ 事例のまとめ ⑬ 筆者の主張	段落ごとに小見出しを書いている。(観察・ノート) 読む
6 本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

5 時間目 形式段落ごとの小見出しを全体で確認する。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 言語事項	1 0		
2 本時のめあて「段落ごとに付けた小見出しの確認をしよう」	5	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2 分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
3 本文の音読をする。	5	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。	
4 形式段落につけた小見出しを全体で確認する。 (交流→全体)	1 5	・段落の小見出しについて確認する。 (全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ)	自分が付けた小見出しと友達が付けた小見出し

		<p>*ペア、席を立てなどは5分以内</p> <p>*10分で意見交換</p>	の類似点・相違点に気づいている。(観察)読む
5小見出しを見て、段落の構成について確認する。	8	<p>①② うそつき少年</p> <p>③ 問い</p> <p>④ ⑤⑥⑦⑧ リレー対抗戦</p> <p>⑨⑩⑪ デパート</p> <p>⑫ 事例のまとめ(答え)</p> <p>⑬ 主張</p>	
6本時の学習の自己評価をする。	2	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

6時間目 詳細な読み(今までの読み取りの仕方)

教科書p60の(2)の問題をノートにまとめる。教科書会社のワークシートを活用してもよい。ここが大事の活用(事例と解説)

7時間目 新聞記事の題材を話し合って決める。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 言語事項	10		
2 本時のめあて 「新聞記事にする題材について考えよう。」	5	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 イメージマップを作り、題材集めをする。個人→全体	15	<p>・4月から今日までの学級行事や学校行事の中から、思い出すことをまとめさせていく。その際、読み手を限定することにより、内容が絞られてくる。例えば、家の人、4年生など</p> <p>(全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ)</p> <p>*ペア、席を立てなどは5分以内</p> <p>*5分で意見交換</p> <p>*新聞は読み手がいることを確認する。</p>	
3 決まった題材についての見出しを考える。	10	<p>・決まった題材についての見出しを考える。イメージマップの形式にすると書きやすい。</p> <p>*見出しを考えるにあたっては、事実と言葉で学んだ、筆者の解説や主張を活用させていく。「事実をどのようにとらえ、どのように表すか」</p>	決まった題材について、見出しを考えている。(ノート・観察)書く
6本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

8 時間目 新聞記事を書く。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 言語事項	1 0		
2 本時のめあて 「新聞記事を書こう。」	5	・ 黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して試写する習慣が身に付くようにする。	
2 教科書 62 ページの記事の例を読んで、新聞記事のイメージを持つ。	1 0	・ 教科書の文例を読んで気づいたことを発表する。発表したことを板書し、記事を書く時の参考にさせる。 ① 文末が常態になっている。 ② 1 つ目の記事は、段落が多い。 ③ 短い ④ 最初に日付が入っている。 ⑤ 場所が変わる、時間が経過したときに段落がついている。	
3 原稿用紙 1 枚以内の新聞記事を書く。	1 5	・ 原稿用紙 1 枚を配布し、記事を書く。 ・ 日付から書き出すことを統一する。 ・ 書けないときは、主語を決めるとよいことを助言する。 ・ 書き方については、黒板で確認をさせていく。	新聞記事を書いている。(原稿用紙・観察) 書く
6 本時の学習の自己評価をする。	5	・ めあてにもどり、自己評価をさせる。	

9 時間目 新聞記事を読み合う。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 言語事項	1 0		
2 本時のめあて 「新聞記事を読み合おう」	3	・ 黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。	
3 見出しや新聞の記事から受ける印象の違いについて話し合うことを確認する。	5	・ 学習の見通しをもたせるために、記事を読み合う、視点を明確にする。 ・ 全児童が同じ題材で書いているので、題材について、板書をするとき視点を意識して、学習できると考える。	
4 読み合いを行う。(ペア→グループ→一斉で)	1 5	・ まず、隣通しで記事を交換し、読み合うモデルの確認をする。 ① 原稿用紙を交換 ② 読む ③ 記事を読んだ感想を(視点は、見出しや表現から受ける印象の違い) 読ませてもらった	友達の新聞記事を読み、自分のよさや、友達との類似点、相違点に気づいている。(ノート・交

		<p>人のノートに書く。</p> <p>④ 記事を書いた人が、伝えなかったことを、伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでやり方が確認出来たらグループになり、ノートを交換して、上記と同様の活動を行う。時間が来たら終了。</li> <li>・最後に、内容が充実している推薦文が書けていた児童を意図的指名する。その後、教師が作品の感想を伝えたり、伝えなかったことを発表したりする。</li> </ul>	流の観察) 書く
5 単元を振り返り、学んだことや思ったことをノートに書いたり、発表したりする。	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間目から6時間目までの、説明文の読み取りについての感想が入るとよい。</li> <li>・まずペア学習、その後一斉での発表をさせていく。(はばプラ交流)</li> </ul>	